

建設物価 建設資材物価指数[®] 2026年1月分 【速報】

建設物価 建設資材物価指数は、建設資材の総合的な価格動向を明らかにすることを目的に作成されており、その対象を建設工事で直接的に使用されている建設資材に限定した物価指数です。なお、本指数は2015年平均を100として算出しています。

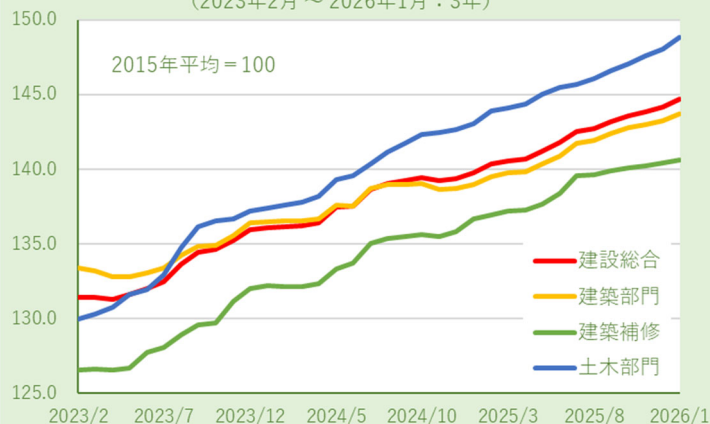
1. 指数の動向（全国平均）

2026年1月の建設資材物価指数の動向は、**建設総合**(全国平均)が**144.7**となり、前月比+0.3%(+0.5ポイント)と14カ月連続の上昇となった。前年同月比では+3.5%(+4.9ポイント)となった。

部門別では、**建築部門**が**143.7**となり、前月比+0.3%(+0.4ポイント)と14カ月連続の上昇となった。前年同月比では+3.4%(+4.7ポイント)となった。**建築補修**は**140.7**となり、前月比+0.1%(+0.2ポイント)と14カ月連続の上昇となった。前年同月比では+2.9%(+3.9ポイント)となった。**土木部門**は**148.9**となり、前月比+0.5%(+0.8ポイント)と2020年6月以降68カ月連続の上昇となり、最高値を更新した。前年同月比では+4.1%(+5.8ポイント)となった。

建設資材物価指数【全国平均】

(2023年2月～2026年1月：3年)



2. 前月比寄与度（大分類別・全国平均）

プラス寄与

【非鉄金属】電線・ケーブル、銅小板

原材料である銅相場の続伸を背景としたメーカーの値上げが浸透し、指数動向のプラスに寄与

【窯業・土石製品】衛生陶器

製造コスト・輸送コストの増加を要因とした大手メーカーの値上げが浸透し、指数動向のプラスに寄与

マイナス寄与

【石油製品・舗装材料】燃料油

原油の調達コスト下落と暫定税率廃止に向けた補助金の拡充を背景に、元売りが卸価格を引き下げ、価格が大幅に下落したことが、指数動向のマイナスに寄与

建設総合 前月比寄与度【全国平均】



建設総合 前年同月比寄与度【全国平均】



3. 都市別の動向（建設総合部門）

都市別にみると、【仙台】（前月比+0.9%）や【新潟】（前月比+0.7%）では、原材料費や運搬費、製造プラントの維持・修繕費など、全般的な製造コストの増加を転嫁した生コンクリートの値上げが指数動向のプラスに大きく寄与した。

【東京】（前月比+0.3%）では、需要は低迷しているものの、製造コストの上昇を背景としたメーカーの粘り強い交渉による異形棒鋼の値上げが市場に浸透し、指数動向のプラスに寄与した。

また、【広島】（前月比+0.3%）では、需要減少に伴う鋼管類の値下がりの影響があったものの、製造コスト・輸送コストの増加を要因としたコンクリート製ブロックなどの値上がりによって、指数動向のプラスに寄与した。

各地の建設総合部門の指数【2026年1月分】

全国平均：144.7	新 潟：141.8	札 幌：148.2
前 月 比 +0.3%	前 月 比 +0.7%	前 月 比 +0.2%
前年同月比 +3.5%	前年同月比 +3.6%	前年同月比 +5.2%

広 島：143.3	大 阪：146.7	仙 台：140.1
前 月 比 +0.3%	前 月 比 +0.2%	前 月 比 +0.9%
前年同月比 +3.9%	前年同月比 +2.2%	前年同月比 +3.5%

福 岡：146.8	東 京：144.8
前 月 比 +0.2%	前 月 比 +0.3%
前年同月比 +4.0%	前年同月比 +3.9%

那 覇：143.3	高 松：151.4	名古屋：144.3
前 月 比 +0.3%	前 月 比 +0.2%	前 月 比 +0.2%
前年同月比 +3.3%	前年同月比 +3.6%	前年同月比 +2.3%

一般財団法人
建設物価調査会

【指数に関するお問合せ先】

総合研究所 経済研究課

TEL：03-3663-7235 E-mail：econ@kensetu-bukka.or.jp

【資材価格に関するお問合せ先】

調査統括部 調査統括課

TEL：03-3663-3892 E-mail：toukatsu@kensetu-bukka.or.jp